

第2学年1組 生活科学習指導案

日時 令和3年7月7日(水) 5校時
場所 2年1組教室 児童数 26名
指導者 教諭 杉本 菜摘

1 単元名 ときどき わくわく まちたんけん～さいごうのよいところ見つけ～

2 単元について

(1) 単元観(教材について)

学習指導要領の内容

- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活しようとしたりする。
- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

本単元は、上記の学習指導要領の内容を受けて設定する。

本単元では、自分たちが住んでいる町を探検し、新たな発見や町のよいところを見つけて、見つけたことを班で話し合いまとめていく。見る、聞く、触るをはじめとする様々な感覚を使って町探検に望むことやその場所に関わる人との交流を通して、地域には様々な場所があつて、そこには様々な人がいることに気付いたり、地域の場所や人に親しみを持つたりすることをねらいとしている。また、自分たちの力で西郷の町の良い所を実際に見付けまとめていく活動を通して、自分たちが住む町を大切にしたい、周りの人に伝えたいという気持ちを育むことができると考える。さらに、その活動の中で、自分ができることを考え、行動する児童の育成という観点からも有意義なものであると考える。

「まちたんけん」に行つて、自分たちが見つけた西郷の町の良いところを伝えるためには、本校の目指す3Cを発揮することとなる。自分だけでは気付くことのできない町の中にあるものや町の良い所の伝え方を友達との交流を通して学び(Communication)、「まちたんけん」で見つけたことをまとめる活動で、相手に町の良い所がより伝わるような様々な工夫を考え(Care)、自分たちの力で試行錯誤しながらまとめていく(Continuity)ことである。

(2) 児童観(児童の実態)

本学級の児童は、5月に1年生と校内を周る学校探検を行っている。その中で1年生を案内するために、校内の教室やそこにいる先生のことを改めて知ることができている。そこから、校内だけでなく自分たちが住む町に目を向けるようになった。1年生の生活科での経験やミニトマトの観察、春見つけの学習を通して様々な物や自然に気付き、観察することは上手にできるようになってきた。しかし、気付いたことを友達と共有し、考えを深めていくことや、関連付けたりすることはまだ十分ではない。

(3) 指導観（指導について）

本単元の指導にあたっては、西郷の町にある施設や公園に探検に行き、友達や地域の人と関わりながら、西郷の町や自然の良いところに気付かせ、その気付きをもとにまとめていく活動をさせる。小単元「まちのことを話そう」「たんけんの計画を立てよう」では、学校探検を終えて校内だけでなく、自分たちが住む校区内の地域について知りたいという児童の思いから、自分たちの登校する道や家の周りで気になる施設や場所を見つける活動に繋げる。そして、見つけた場所を地図を使って学級で確認し、その際に名前や存在は知っているがそこはどんなところで、どんなものがあるのかは知らないことに気付かせる。また、その地図を掲示することで、自分たちが住む地域でも知らないことがあるから知りたい、行ってみたいという児童の活動意欲を高めたい。

小単元「まちをたんけんしよう」では、校区内の4か所、「横武クリーク公園」、「共同調理場」、「野菜の直売所」、「西郷保育園」に行く。実際に「まちたんけん」に行った際には、目、鼻、耳、手を使って気付いたことをメモするワークシートを用いる。また1回目の探検では、地域の人に質問したりはせず、不思議に思ったことや疑問に思ったこともメモさせるようにする。そうすることで、グループで気付きを共有した時に、分からない点があると次の探検で地域の人に質問したいという思いや、もう一度施設や場所を観察したいという思いがもてると考える。探検の際には、個人が関心を持った場所の写真が撮れるように、各グループに1台ずつタブレットを持って行く。そして、グループでの活動の際には、写真を見合いながら自分の気付きを話すことができるようにする。

小単元「見つけたことをつたえ合おう」では、「まちたんけん」に行き、分かったことや気付いたことをまとめる活動を行う。その後、学級全体で「どきどき わくわく まちたんけんクイズ大会」をし、西郷の良さを学級で共有できるようにする。

他教科との関連としては、国語の「かんさつ名人になろう」で、気付いた事などを短くメモして、それを文章にすることを学んだ。また、学級活動でタブレットを用いた学習をし、カメラ機能を様々な状況に応じて使うことを学んでいる。


3 単元の目標と評価規準、及びSDGs・3Cとの関連

(1) 単元の目標

探検で見つけたことを交流する中で、地域には自分たちの生活と関わっている所がたくさんあることや、それらの場所が自分たちの生活を楽しくしていることに気付き、それらを自分たちの生活に取り入れようとするようにすることができるようにする。

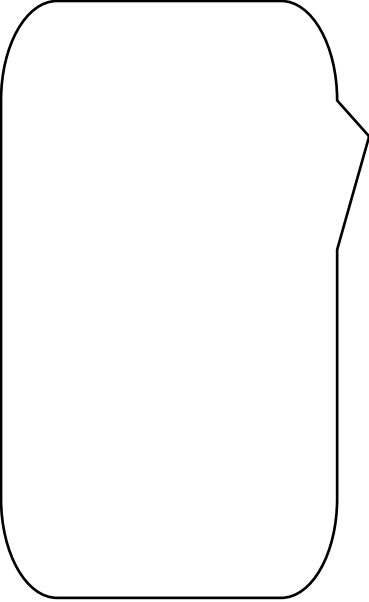
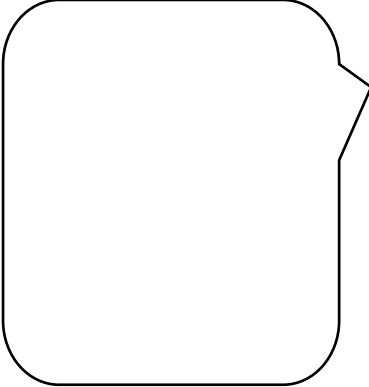
(2) 単元の評価規準、及びSDGs・3Cとの関連

	本単元の評価規準	SDGs との関連	3C との関連
知識・技能	・地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、自分の身近な地域には、さまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付いている。		①【Communication】 交流活動を通して、自分の考えを伝えるとともに、他者の考えのよさを受け入

<p>思考・判断・表</p>	<p>・地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、身近な地域の場所と自分との関わりを見付けている。</p>		<p>れようとしている。</p> <p>②【Care】 友達や地域の人、地域の場所と自分のつながりに関心を持つようとしている。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>・地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所や人に親しみを持ち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとしている。</p>		<p>③【Continuity】 友達と協力して試行錯誤し、より相手に伝わるようなものをつくろうとしている。</p>

4 単元指導計画（全15時間）

小単元名・主な児童の反応	ねらい（○教師の手立て）	評価規準	3 C	評価方法
<p>1 まちのことを話そう（2）</p> <p>学校探検には行ったから、町探検にも行ってみたいな。</p> <p>2 たんけんの計画を立てよう（1）</p>	<p>さいごうの町にどんな場所があるか話そう</p> <p>○地区ごとの班に分かれて、西郷の町にある施設や場所にどんなものがあるか話し合わせる。</p> <p>○それぞれの班が挙げた場所を学級全体で共有しながら、地図に示す。</p> <p>○「どんな場所？」と児童に聞き、どんな場所なのか自分たちも分かっていないことに気付かせ、待ち探検への意欲を高める。</p> <p>○前時で決まった探検に向かう場所の中から、児童の希望を基にグループ分けを行う。（1か所につき2班）</p>	<p>知</p> <p>②</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>思 態</p>		<p>行動観察 ワークシート</p> <p>行動観察</p>

<p>3 まちをたんけんしよう (7) (9/15・・・本時)</p> 	<div style="border: 1px solid black; height: 25px; width: 100%;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ○事前に決めた4か所に町探険に行く機会を設ける。 ○探険中に気付いたことや分からないことをメモするためのワークシートを用いる。 ○探険での写真を撮るためのタブレットを持たせる。 ○探険後に、児童それぞれが気付いたことや見つけたもの、分からなかったことなどを各グループで共有し整理する機会を設ける。 ○分からないことなどを解決するにはどうしたらよいか、各グループで考える時間をとる。 ○各グループで整理した内容を基に、2回目の探険の計画を立てたり、地域の人への質問を考えたりする時間をとる。 	<p>知 思 態</p>	<p>① ② ③</p>	<p>行動観察 ワークシート 発言分析 振り返り</p>
<p>4 見つけたことをつたえ合おう (5)</p> 	<div style="border: 1px solid black; height: 25px; width: 100%;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ○町探険で分かったことや地域の人との関わりの中で知ったことを、西郷の町の素敵などころとしてまとめる活動を行う。 ○作成したものを学校内に掲示するよう伝え、児童が相手意識をもって活動に望むことができるようにする。 ○児童が作成したものを校内に掲示する。 ○「どきどき わくわく まちたんけんクイズ大会」を実施し、西郷の良い所を学級で共有できるようにする。 	<p>知 態</p>	<p>① ③</p>	<p>行動観察 制作物 発言分析 振り返り</p>

5 本時の指導

(1) 本時の目標

町探険に行ってみつけたことや分からなかったことをもとに、友達と自分の考えを比べたり、関連付けたりしながら考えを整理し、解決するための手立てを考えることができるようにする。

(2) 本時に位置付けた評価規準

地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、身近な地域の場所と自分との関わりを見付けている。

(3) 展開 (□…評価 B おおむね達成 ●達成不十分な児童への手立て)

過程	学習活動	教師の働きかけと評価
つかむ	1 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	○町探険の様子を電子黒板で提示し、その時の様子を思い出させる。 ○単元のゴールが西郷の素敵なところを見つけることを全体で確認し、そのためにグループで分かったことや分からないことを整理することを確認する。
まちたんけんパート2であることを話し合おう。		
探る	2 グループごとに町探険で見つけたものや気付いた事、分からなかったことを共有し、整理する。 3 分からなかったことをもとに、各グループで解決策を話し合う。	○前時で、町探険で使ったワークシートを基に、一人一人見つけたことや分からなかったことを付箋に書いておく。 ○個人が持つ付箋を基に考えを整理する。 ○「見つけたこと」と「分からなかったこと」が分かれたボードを準備しておき、児童が付箋の整理をしやすくなるようにする。 ○町探険で使用したタブレットの写真を待たせておき、町探険で見つけたことなどを友達に見せることができるようにする。 ○ボードに仲間分けさせることで、自分たちの考えが整理されていることが可視化できるようにする。 ○可視化することで、自分たちのグループにまだ分かっていないことがあることを確認する。 ○話し合いの流れを提示する。 ○分からなかったことを解決するには、なにをしたらよいかグループで話し合わせる。 ○できる、できないに関係なく話し合っただけの案は、すべて記入させるようにする。 ○各グループが持っている写真をチェックする時間をとり、次回の町探険への見通しがもてるようにする。 ○早く終わった児童には、分からないことの答えを予想させ、調べたいという意欲を持つことができるようにする。
活動の流れ ①付箋に書いたことを友達に紹介する。 ②付箋をボードに仲間分けする。 ③仲間分けしたことを友達と確認する。 ④分からなかったことを解決するためにどうしたらよいか話し合う。 ⑤出た意見を学級全体で共有する。 ⑥振り返りをする。		

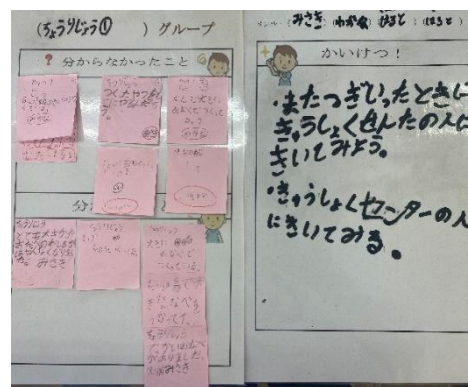
<p>ま と め る</p>	<p style="text-align: center;">話し合いのながれ</p> <p>①かいけつほうほうを考える。</p> <p>②しゃしんチェック ・しゃしんのうらに書こう！ ○→ばっちりとれてる！ △→とりなおし ×→つかわない</p> <p>③はやくおわったら答えをよそうしよう！</p> <p>3 本時の活動を振り返り、次時の活動を確認する。</p>	<p>A 友達と交流しながら、自分たちのグループの考えを整理し、解決するための手立てを考え、その答えを予想している。</p> <p>B 友達と交流しながら、自分たちのグループの考えを整理し、分からなかったことを解決するための手立てを考えている。</p> <p>● 友達と自分の付箋を比べさせ、同じ考えや違う考えがあることに気付かせる。</p> <p>○それぞれのグループのボードを黒板に提示し、学級全体でまだ分かっていないことがあり、そのためにまた活動すべきことに気付かせるようにする。</p> <p>○1回町探検に行っただけでは、西郷の町の素敵などところを見つけきれていないことに気付かせ、次の町探検や地域の人との関わりへの意欲を高める。</p> <p>○振り返りを書かせ、もっと西郷の町の素敵などところを見付けたいという次時への意欲を高める。</p>
----------------------------	---	---

6 本時の考察

本時をする前に、児童が実際に町探検に行つて分かったこと、疑問に思ったことを事前に付箋に書いておいた。そして、本時でその付箋をKJ法を用いて整理、分類した。自分の考えを表すだけでなく思考ツールを用いて考えを整理することで、他者の考えに触れたり意見を整理したりすることに思考ツールが適していると感じながら学習を進めることができた。

KJ法を用いて、意見を分かったことと分かっていないことに整理分類した。分からなかったことを解決するための方法を各グループで話し合いを行った。どのグループも意見を出していたが、「もう一度質問する。」や「また見に行く。」という意見に偏っていた。「誰に」や「何を」

のようなより具体的な解決方法を出すためにも一度モデルを提示して全体で共有すると児童の視点も広がったのではないかと感じた。また、疑問を書いた付箋と児童が考えた解決方法が、パッと見た際にボード上で対応していなかった。児童の思考が繋がるように、矢印を引くなどして疑問と解決方法を対応させた方が、解決方法の話し合いもより具体的な意見が出るのではないかと考えた。



資料1 KJ法を用いて意見を整理する

本時の中で、児童はKJ法での整理分類だけでなく、写真の選定も行なった。町探険に行った際に、自分たちがタブレットを用いて撮った写真が綺麗に撮れているのか、撮り直した方がいいのかをグループで確認しあった。児童は自分たちが撮った写真だったということもあり、とても活発に意見交換をしていた。現物を見ながら話し合いをすると、児童の意見交換も弾むのだということを感じた。



資料2 タブレットで撮影する様子

7 成果と課題

① 成果

- ・自分たちが住んでいる西郷の町を探検して、まだ知らない良い所を人に伝えることを目的とした単元であった。対象が、自分たちが住む西郷の町であったということもあり、3Cの力を様々な場面で発揮して、学習することができていた。
- ・グループに分かれて町探検をし、まとめまで行う中で自分の意見だけでなく、他者の意見も聞きながら活動することができた。(continuity) (communication)
- ・良い所を自分たちだけで探すだけでなく、良いところや疑問に思ったところを地域の人(公園の管理人さん、保育園の先生、調理場の先生、農家の方)に聞くことができた。また、町探検も一度だけでなく二度行くことができたので、地域の方と繋がって、やり取りをすることができた。地域の方々にした質問も児童が自分たちで考えたものであったため、疑問が解決した際の達成感や、分かったことを人に伝えたいと感じる気持ちはより強いものになっていたと感じる。(care)
- ・町探検に行ったり、質問を考えたり、自分たちでまとめる内容を決めたりと児童の主体的な活動が多く設定されていた。それぞれの授業の振り返りには、「二回目の町探検ではもっと綺麗に写真を撮りたい。」や「考えた質問を頑張って農家の人に聞きたい。」というような次の授業を見据えたものが多かった。様々な主体的な活動や思考ツールの活用が、児童の「もっとこうしたい!」というような意欲や行動に効果があったのだと考える
- ・地域の方々とのつながりを用いて、児童なりの西郷の町の良いところを見つけることができた。



資料3 調理場の先生と見学する様子



資料4 撮った写真を見せながら発表する児童

